

Express5800/CacheServer (N シリーズ) Express5800/CS シリーズ オフラインアップデート手順書

2007 年 11 月 第 6 版

1. 概要	2
2. アップデートを行うにあたっての注意事項	2
3. 事前準備	2
4. アップデート方法	3
手順A	4
手順B	8
手順C	11
手順D	13
5. セキュリティ設定の確認	16

1. 概要

本手順書は、Express5800/CacheServer (N シリーズ) (N8100-803/N8100-804/N8100-806)、Express5800/CS シリーズ (N8100-802/N8100-906/N8100-805/N8100-805A/N8100-1011/N8100-1012/N8100-1096/N8100-1141/N8100-1345/N8100-1346) (以下、CS と略す)においてアップデートを行うための手順書です。

2. アップデートを行うにあたっての注意事項

- ・ 必ずこの手順書に沿って作業を行ってください。この手順以外でのアップデートは誤動作の原因となる場合があります。
- ・ CS にプロキシを介さずに接続できるマシンを用意してください。
- ・ Management Console を起動する場合には、ブラウザとして Microsoft Internet Explorer5.5 以上を推奨します。

3. 事前準備

以下のアップデートモジュールのファイルサイズが正しいことを確認します。

機種毎に適用するモジュールが異なりますのでご注意ください。他機種用モジュールを適用しますと、CS が正常に動作しません。

- ・ CacheServer (N シリーズ) (N8100-803/N8100-804/N8100-806) 用
offlineupdates-1.0-8.i386.rpm 5,958,013 bytes
- ・ CS シリーズ (N8100-802/N8100-906/N8100-805/N8100-805A) 用
offlineupdates-2.0-8.i386.rpm 12,487,287 bytes
- ・ CS シリーズ (N8100-1011/N8100-1012) 用
offlineupdates-3.0-8.i386.rpm 18,437,136 bytes
- ・ CS シリーズ (N8100-1096/N8100-1141) 用
offlineupdates-4.0-8.i386.rpm 1,702,690 bytes
- ・ CS シリーズ (N8100-1345/N8100-1346) 用
offlineupdates-5.0-9.i386.rpm 1,715,832 bytes

4. アップデート方法

モジュールのアップデート方法は2つの方法があります。

- (1) CD-R、CD-RW などの CD 媒体にアップデートモジュールを格納し、アップデートを行う
- (2) ローカルの web サーバにアップデートモジュールを置き、アップデートを行う

手順Aを行った後、(1)の方法でアップデートする場合には**手順B**へ、(2)の方法でアップデートする場合には**手順C**へ進んでください。

最後に、アップデートが正常に行われたか確認するため**手順D**の作業を行ってください。
なお、手順書内のキャプチャ画像は操作例を示すためバージョン番号などの表示内容が実際と異なる場合がありますが、項目3. に記載されているバージョンと読み替えてください。

また、(2)の方法でアップデートを行う際、ご使用の Web サーバの種類によっては、アップデートモジュールを正しく転送できない場合があります。モジュールの転送に失敗する場合は、(1)の方法でアップデートを行ってください。

手順 A

事前準備と Management Console の接続までを行います。

A-1 事前準備

CD 媒体を使用したアップデートを行う場合、アップデートモジュールを CD 媒体へ格納します。

Web サーバを使用したアップデートを行う場合、アップデートモジュールを Web サーバへ格納します。

[重要] CSシリーズ CS300e/CS500e(N8100-1345/N8100-1346)の アップデート適用について

以下の両方の条件に適合する場合に限り、事前準備として特別な操作を行い CS の動作を停止させる必要がございます。

行わなかった場合、CSが正常に動作しない可能性がございますので、
ご注意ください。

- ・ハードディスクが論理的に 2 台以上に見える構成の場合

ハードディスクを非 RAID 構成で 2 台以上搭載している場合や、RAID で論理ドライブを複数作成している場合が該当します。

- ・wbmccache パッケージのバージョンが wbmccache-3.1-55 未満の場合

必要な操作は以下のとおりです。

CS のコンソールから直接、あるいは telnet 経由でログインします。

login: mainte

Password: ←お客様が設定済みの保守用パスワードをご入力ください。

[mainte@host]\$ su -

Password: ←お客様が設定済みの管理者パスワードをご入力ください。

[root@host root]# /sbin/service roma stop

→プロキシ動作が停止します。

[root@host root]# /sbin/rmmod kc

[root@host root]# /sbin/lsmmod | grep kc

→何も出力されなければ問題ありませんが、

「kc ***** *」(*は任意の数字)が出力された場合は

もう一度/sbin/rmmod kc を実行し、出力されなくなるまで繰り返します。

後述の手順に従い、アップデートを適用します。

A-2 Management Console の起動とログイン

ブラウザより Management Console へアクセスしてください。

- CacheServer (N シリーズ)
セキュリティレベル 1 (標準) :
<http://CSサーバのIPアドレス:50080/>
セキュリティレベル 2 :
<https://CSサーバのIPアドレス:50443/>
- CS シリーズ
セキュリティレベル 1 :
<http://CSサーバのIPアドレス:50090/>
セキュリティレベル 2 (標準) :
<https://CSサーバのIPアドレス:50453/>

Management Console のログイン画面 (図 1) が表示されたら、[システム管理者ログイン] をクリックし、正しくログインしてください。

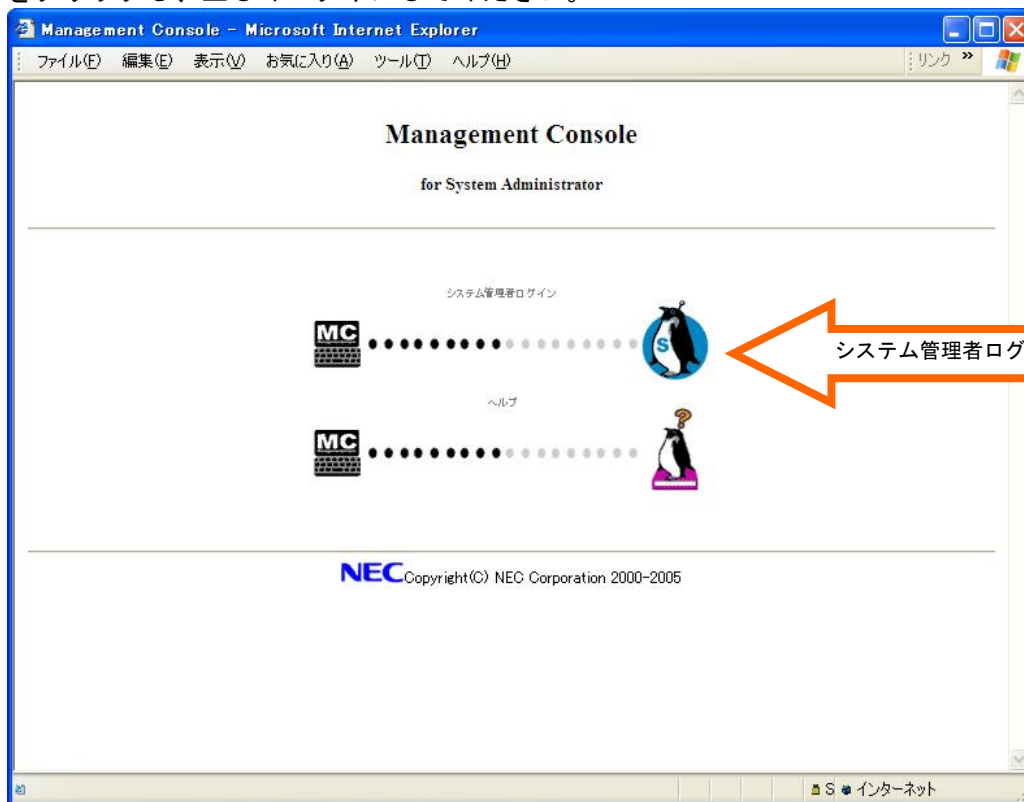


図 1. ログイン画面

A-3 トップ画面

ログインが正しく行われますと、トップ画面(図2)が表示されます。
画面左のメニューより「パッケージ」をクリックしてください。

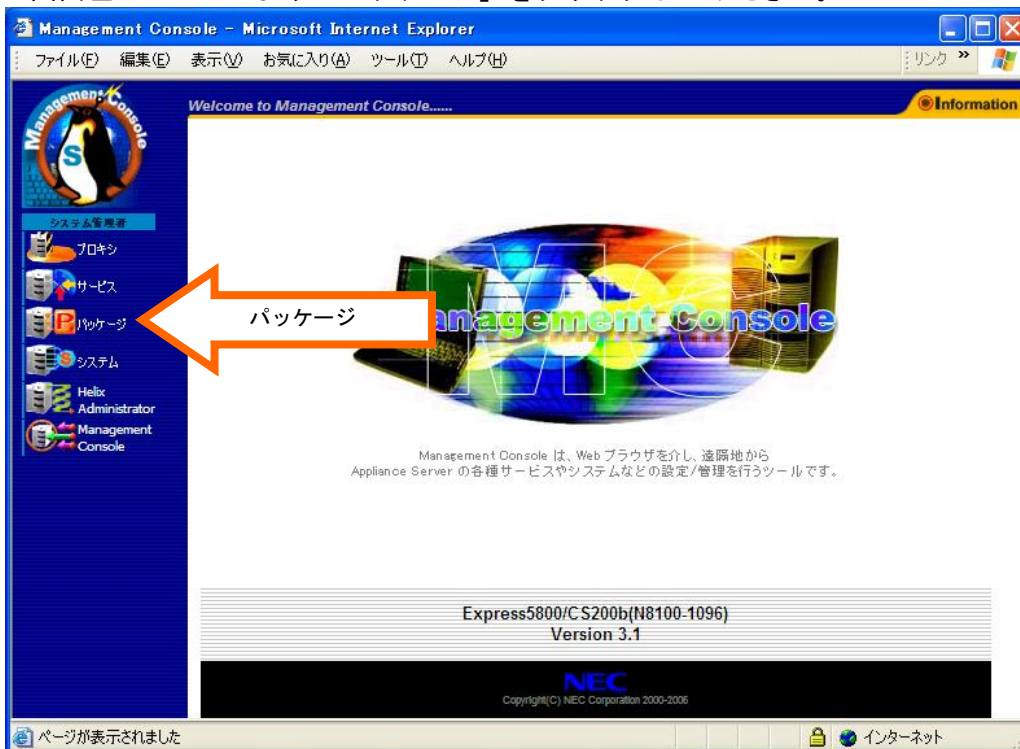


図 2. Management Console のトップ画面

A-4 パッケージ画面

パッケージ画面(図3)が表示されましたら、[■手動インストール]の[手動インストール]をクリックしてください。

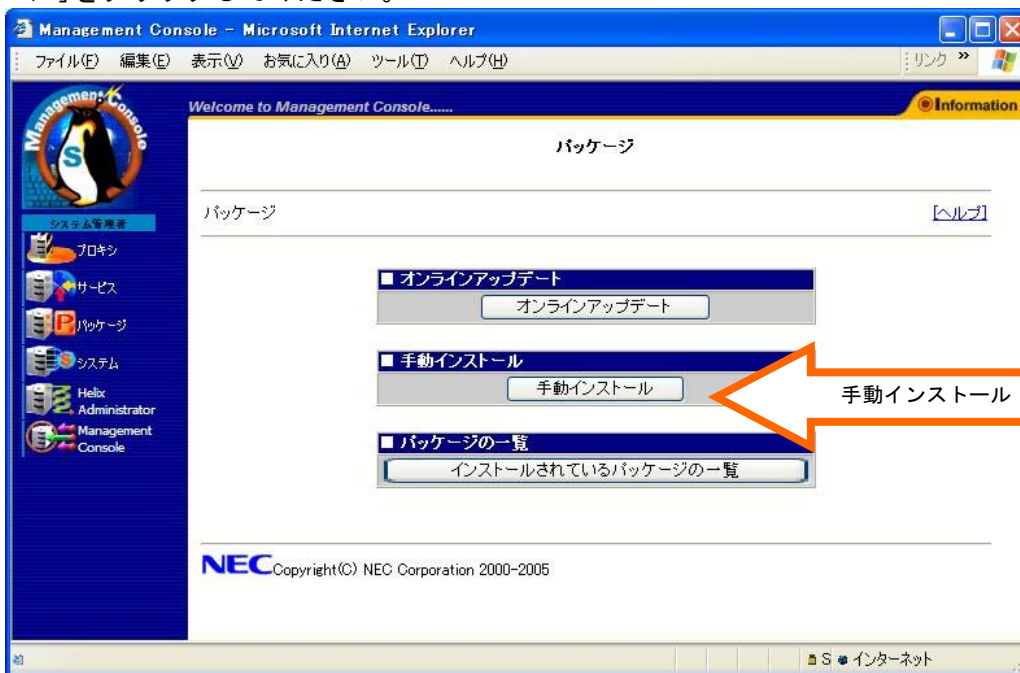


図 3. パッケージ画面

A-5 手動インストール画面

手動インストール画面(図4)が表示されます。

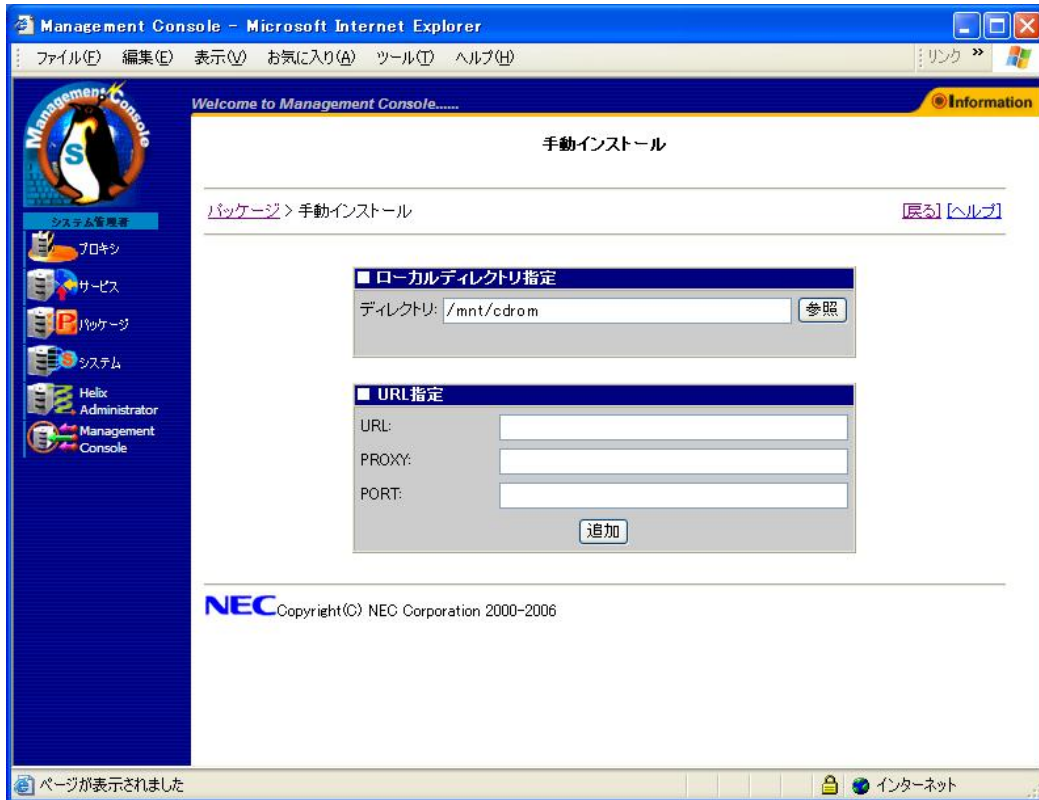


図4. 手動インストール画面

手順B

CD 媒体を用いたモジュールのアップデートを行います。

B-1 手動インストール画面

手順Aが終了したら、CSのCD-ROMドライブに「A-1. 事前準備」で作成したCD媒体を入れてください。

その後、[■ローカルディレクトリ指定]の[ディレクトリ]に” /mnt/cdrom” を指定し [参照]をクリックしてください(図5)。

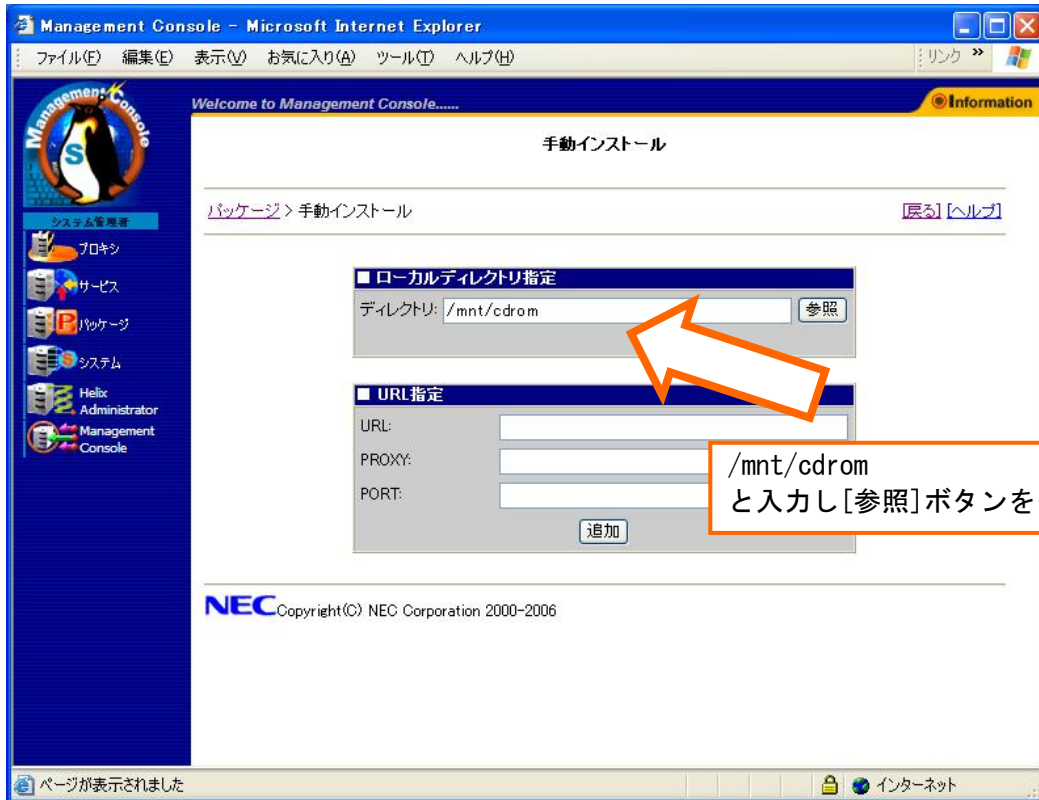


図5. 手動インストール画面

B-2 手動インストール

CD 媒体内のアップデートモジュールが表示されます。(図 6)

アップデートモジュールの文字列の左横にある[追加]をクリックしてください。なお、” /mnt/cdrom/offlineupdates-1.0-1.i386.rpm” 等の文字列をクリックするとアップデートモジュールの詳細な情報を参照することができます。



図 6. パッケージ一覧

B-3 確認ダイアログ

[追加]クリック後、確認のダイアログ(図 7)が表示されます。[OK]を押してください。



図 7. 確認ダイアログ

<注意>

クリック後は操作結果通知画面が表示されるまで数十秒かかることがありますので、しばらくお待ちください。結果が表示される前にクリック等の操作を行った場合、正常にインストールされない可能性がありますのでご注意ください。

B-4 操作結果通知画面

図9の操作結果通知画面が表示されたらアップデートモジュールのインストールは正常に完了したことになります。操作結果通知画面でエラーが表示された場合にはB-1からもう一度やり直してください。

<注意>

モジュールをインストールしたとき、“warning:/opt/nec/roma/etc/roma.conf created as ~”というメッセージが出力されることがあります。これは、既に存在していたユーザ設定済みの設定ファイルを置き換えずに他のファイル名で保存しました、という意味のメッセージで、エラーではありません（動作に支障はありません）。

また、操作結果通知画面が表示されずにタイムアウトが起こった場合には[システム]→[システムの再起動]をクリックしてCSの再起動を行った後、もう一度A-1からやり直してください。

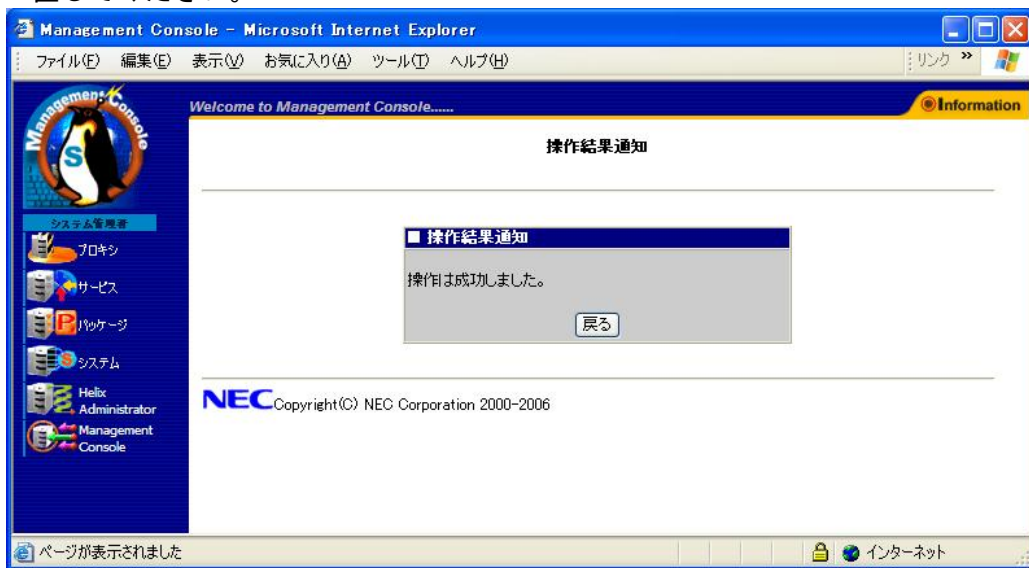


図9. 操作結果通知画面例

以上で手順Bは終了です。

アップデートを完了させるため、手順Dを実行しシステム再起動と適用状態の確認を行ってください。

手順 C

web サーバを用いたモジュールのアップデートを行います。

C-1 手動インストール画面

手順 A が終了したら、[■ URL 指定]の[URL]にアップデートモジュールの URL を指定します(図 10)。

CS シリーズでは、プロキシ指定が可能となっています。アップデートモジュールを格納したサーバへプロキシ経由でアクセスする必要がある場合は、以下の操作を行います。
[■ URL 指定]の[PROXY]に「プロキシ」の基本設定画面に設定されている” キャッシュサーバ IP アドレス” の IP アドレスを指定します。

[■ URL 指定]の[PORT]に「プロキシ」の基本設定画面に設定されている” キャッシュサーバポート番号” のポート番号を指定します。

必要事項を入力し、[追加]ボタンをクリックします。

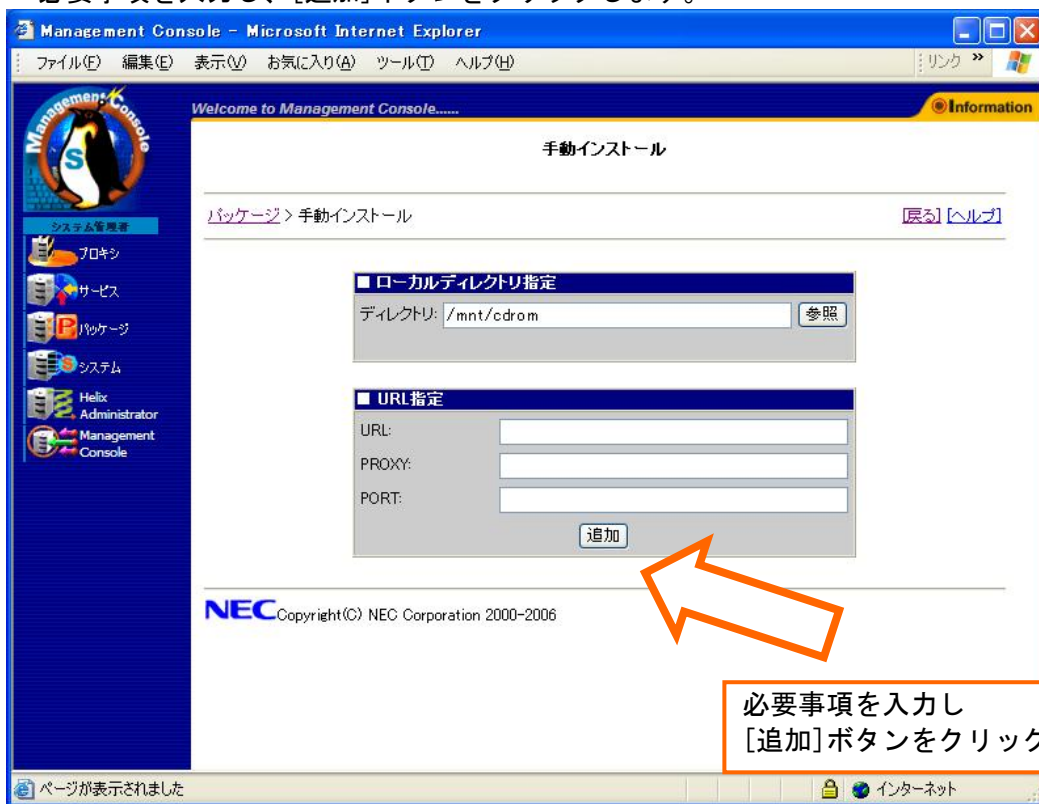


図 10. 手動インストール画面

C-2 確認ダイアログ

[追加]クリック後、確認のダイアログ(図 1 1)が表示されます。[OK]を押してください。



図 1 1. 確認ダイアログ

<注意>

クリック後は操作結果通知画面が表示されるまで数十秒かかることがありますので、しばらくお待ちください。結果が表示される前にクリック等の操作を行った場合、正常にインストールされない可能性がありますのでご注意ください。

C-3 操作結果通知画面

図 1 2 の操作結果通知画面が表示されたらアップデートモジュールのインストールは正常に完了したことになります。操作結果通知画面でエラーが表示された場合には B-1 からもう一度やり直してください。

また、操作結果通知画面が表示されずにタイムアウトが起こった場合には [システム] → [システムの再起動] をクリックして CS の再起動を行った後、もう一度 A-1 からやり直してください。



図 1 2. 操作結果通知画面例

以上で手順 C は終了です。

アップデートを完了させるため、手順 D を実行しシステム再起動と適用状態の確認を行ってください。

手順 D

システム再起動を行ってアップデートを完了させます。
再起動完了後、適用状態の確認を行います。

D-1 キャッシュサーバの再起動

画面左のメニューから、[システム]をクリックしてください。
システム画面(図13)が表示されます。

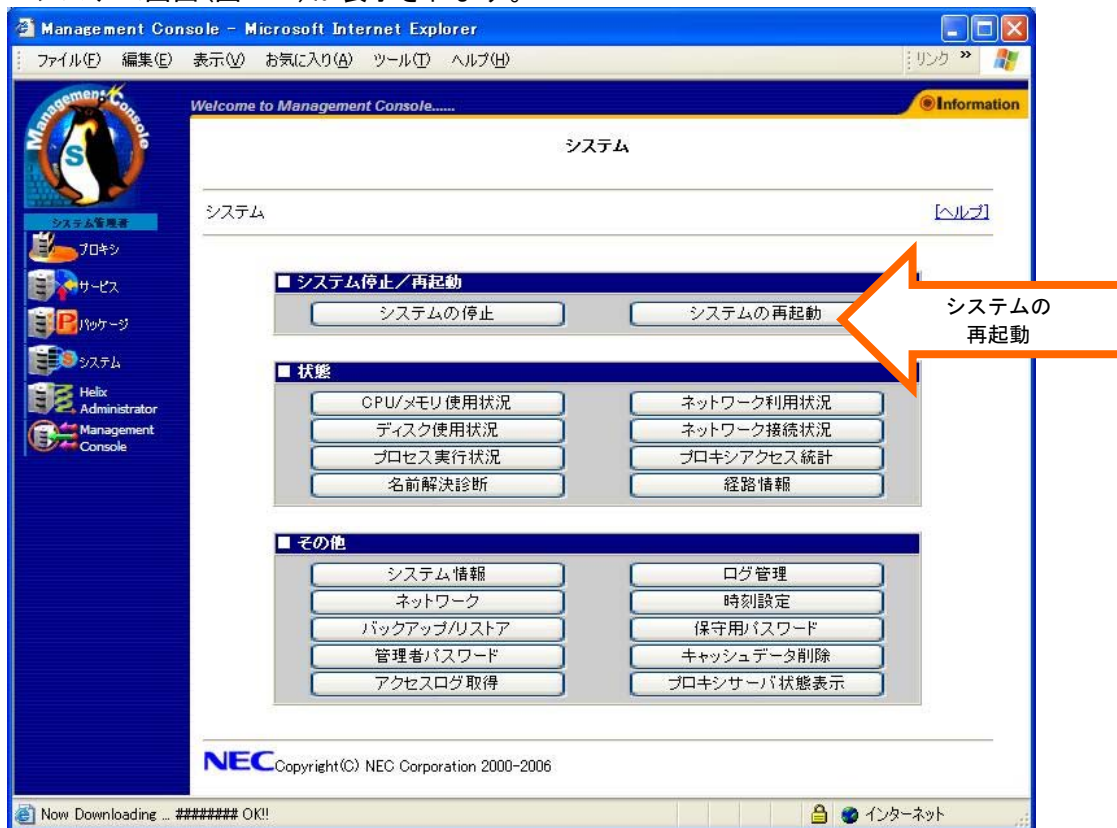


図 13. システム画面

[システムの再起動]をクリックしますと、システムの再起動を行います。
再起動には数分~数十分かかります。

D-2 パッケージの確認

アップデートモジュールが正常にインストールされたか確認します。パッケージ画面(図14)を表示し、[■パッケージ一覧]の[インストールされているパッケージの一覧]をクリックします。

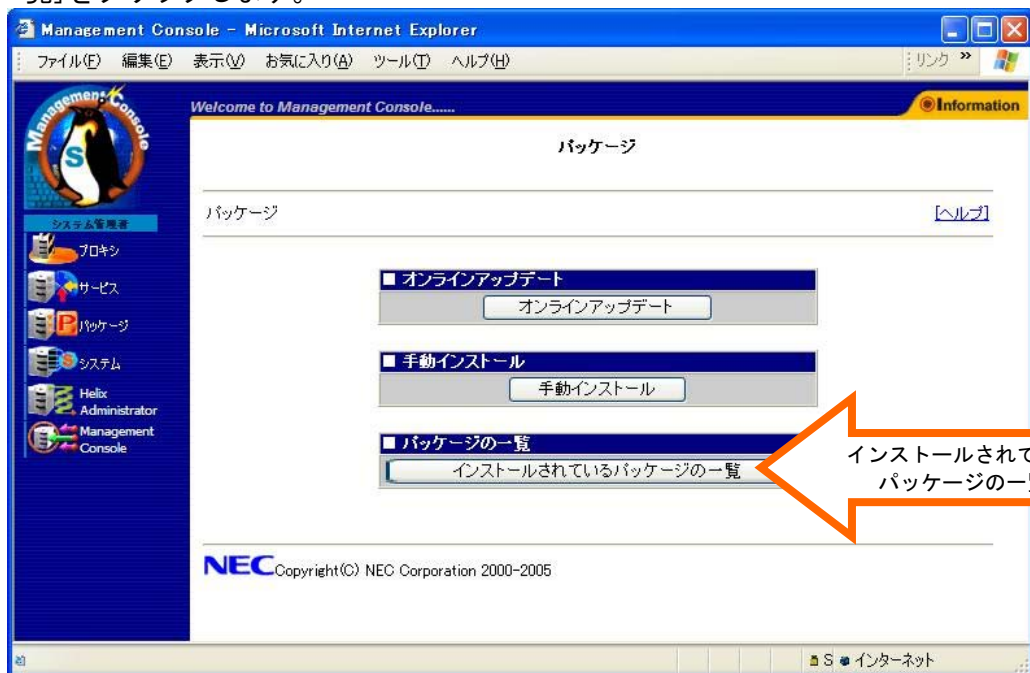


図 1 4 . パッケージ画面

D-3 パッケージ一覧

パッケージ一覧画面(図15)が表示された後、パッケージ一覧の中から項目3. のアップデートモジュールが存在することを確認してください。
存在していない場合、手順Aからもう一度アップデート作業を行ってください。

<注意>

バージョン番号に注意して確認してください。

パッケージ一覧には「.i386.rpm」という文字は表示されませんのでご注意ください。



図15. パッケージ一覧画面

5. セキュリティ設定の確認

機種によっては、本モジュールの適用により下記のセキュリティ設定を容易に行えるようになります。

- ・ IP アドレスによるクライアント接続制限機能
- ・ CONNECT メソッドによる接続先 TCP ポート番号制限機能

デフォルトのセキュリティ設定は下記の通りとなっています。(Reverse を除く)

- ・ プライベート IP アドレス空間 (10.0.0.0 ~ 10.255.255.255、172.16.0.0 ~ 172.31.255.255、192.168.0.0~192.168.255.255) のアドレスを持つクライアントのみ接続を許可
- ・ CONNECT メソッドによる接続先 TCP ポート番号は 443 のみ許可

通常では上記設定で問題なく閲覧できますが、接続先 Web サーバの設定によっては上記設定を変更する必要があります。

現在のセキュリティ設定を確認、あるいは変更するためには以下の手順に従って操作を行ってください。

5-1 Management Console にアクセスして「プロキシ」をクリックしてください。

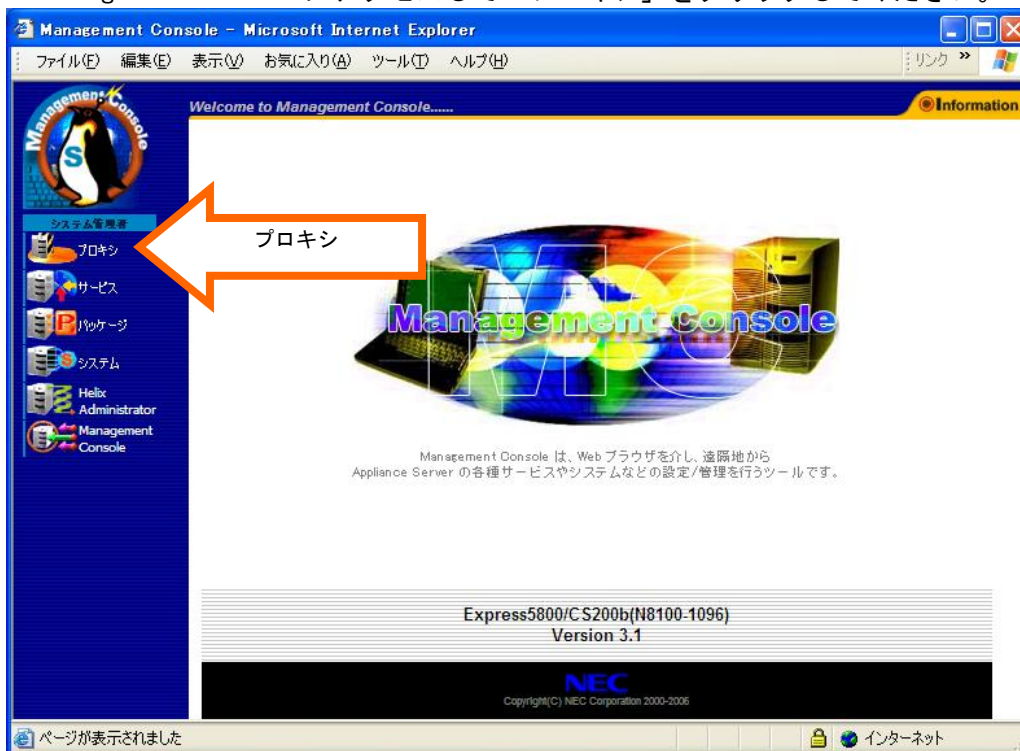


図 1 6. Management Console のトップ画面

5-2 「セキュリティ設定」ボタンを押してください。



図 17. プロキシ画面

5-3 セキュリティ設定の変更

現在のセキュリティ設定が表示されます。設定内容を確認し、必要であれば設定の変更を行ってから「設定」ボタンを押してください。設定項目の詳細については同じ画面にある「ヘルプ」をクリックして表示されるヘルプ画面を参照してください。



図 18. Management Console のトップ画面

以上でアップデートモジュールの適用における全工程は終了です。